

いなむら市長の「い～なこの街 尼崎」 5月

テーマ：東京スカイツリー開業にまつわる尼崎の企業

DJ(林)

さて、東京スカイツリーがいよいよオープンとなりましたね。

市長

本当ですね。

DJ(林)

実は、私もね抽選に何回もトライしたんですよ。3回目でやっと当選して6月に昇ってくる事ができるんです。

市長

わぁ～羨ましいです。

DJ(林)

今から楽しみにしております。

市長

本当ですね。

DJ(林)

さて、今回は、「東京スカイツリー開業にまつわる尼崎の企業」についてお話をうかがいたと思います。

市長

はい。東京スカイツリーは、東京都の墨田区。ここも、もの作りの街なんですけれどもね。この墨田区に自立式電波塔として建築されたもので、高さは世界一の634メートル。テレビなんかでムサシ、ムサシと言ってるので私も覚えちゃったんですけれども、これまで日本で最も高かった構造物は、昭和33年完成の東京タワー。あの東京タワーは、333メートルということですから、約50年を経て、一気に今度は倍近くの高さになったというわけなんです。

これは、これまでにない高さでの建築ということで、最先端技術を駆使した「未知の領域への挑戦」だったと思うんです。

DJ(林)

本当ですね。あれだけの構造物がいかにして出来上がったのか興味がわきますよね。日本の最先端技術の結晶なんでしょうね。

市長

はい。東京スカイツリーを建築するために、結集した最先端技術をもつ企業さんの中には、私たちに馴染みの深い関西の企業が実は多いんです。

DJ(林)

そうですか。

市長

まず、建築施工は明治25年、大阪市西区で創業した大林組。タワーのてっぺんの円形鋼管は神戸製鋼、そして尼崎にも工場があります佐々木製罐(せいかん)工業が共同開発されたものだそうです。また、メンテナンスフリーの塗料は、大日本塗料。そして、これもテレビでご覧になった方いらっしゃると思いますけど、本当に粋で雅なLED照明、これはパナソニックです。

DJ(林)

とてもダイナミックですね。

市長

はい。なんだか、関西の技がすごく結集してると思います。

DJ(林)

本当ですね。関西で生まれた技術のタネが、今、東京で花開いているんですね。

市長

はい。そこで、今日はスカイツリーで活躍する尼崎の企業を2つご紹介したいと思います。

DJ(林)

はい。

市長

1つ目は、日本で唯一、雷ひとすじで頑張っている会社、音羽電機です。

今年の2月には、経済産業省が開催する「ものづくり日本大賞」で特別賞を受賞されました。また、「元気なモノ作り中小企業300」にも選ばれています。

DJ(林)

そうですか。音羽電機といえば、JR尼崎駅の北側で稲妻模様が格好よくついているあの会社ですね。

市長

そうです。そうです。雷ミュージアムもあるんです。雷対策の会社です。

DJ(林)

雷ミュージアムですか？

市長

ええ。私も伺ったことあるんですけどもね、雷対策製品や雷の仕組みが学べるミュージアムです。

DJ(林)

そうですか。

市長

雷を模擬発生させ、見学者が雷の世界に触れることができるんですよ。私も凄い迫力でびっくりしたんですけど、見学に来る子ども達も凄く喜ぶみたいです。また、尼崎本社のほか、大阪市にある大阪科学技術館にも常設展示をされています。

DJ(林)

なるほど。東京スカイツリーは世界一の高さを誇るタワーですから、雷も落ちやすいんでしょうね。

市長

そうなんです。関東地方の年間雷雨日数、それとタワーの高さから計算した、予測落雷回数は、年間十数回にのぼるそうです。

DJ(林)

そうですか。

市長

そこで、雷を受けた時に発生する、高電圧を放電するシステムとか、絶縁システムなど音羽電機の製品を使って、雷がタワーのどこに落ちても、電気機器とかもちろんあの訪れていらっしゃる人に被害を与えることなく、地下に放電されるような構造になっているそうです。

DJ(林)

そうなんです。さてタワーの足元では、新しく商業施設もできたんですよ。

市長

はい、東京ソラマチですね。「新・下町流」をコンセプトとした、商業施設でファッションや雑貨、グロッサリー、スイーツ、レストランなど専門店が、312店舗も入っているんだそうです。

DJ(林)

312店舗とは、東京でもかなり大きな商業施設ですね。お客様もたくさんいらっしゃるでしょうね。

市長

はい。その中に、今回ご紹介したい2つ目の尼崎の企業、北野エースが出店するんです。

DJ(林)

北野エースですか？

市長

はい。尼崎だと、スーパーのエース、新鮮館と言った方がわかる方多いんじゃないでしょうか。

DJ(林)

知ってます。確か安さが売りのお店ですよ。

市長

尼崎市内では、東園田町に今、一店舗あります。北海道から沖縄まで全国49店舗を展開しています。店舗ごとにコンセプトが違って、東京ソラマチに今回出店するお店は、デパート展開する生活提案型グロサリーショップの北野エースなんだそうです。

DJ(林)

各お店で、コンセプトが違うんですね。

市長

ええ。もともと、激安を売りにした大型スーパーだったんですけども、大手のショッピングセンターが次々と進出する中、経営がだんだん悪化したそうなんです。倒産の危機に直面した時、社長の北野さんが大勝負に出られたと。安売りをやめて、品揃えを売りにしていく。その品揃えも、例えば、高齢者の多い地域では、和菓子を豊富にする。駅中の店舗では、通勤途中に立ち寄る人をターゲットにしたお弁当や惣菜を多く取り揃えるなど、安さより、買う楽しさ。量よりも、質を売る個性派スーパーとして大きく方向転換されたそうです。

DJ(林)

なるほど。

市長

そしてそんな、スーパーの品揃えを決める権限を持っているのが、各店舗の店長さん達ということで、やっぱりそういった地元の感覚、それがお店作りに生きてるんだそうで、私も市政を運営する時に勉強になるなどこの話を聞きました。

DJ(林)

なるほど。危機を救ったのは、社長の決断と社員の目利きだったんですね。

市長

はい。尼崎の企業、関西の技術が今、本当に注目を浴びている、一番輝いているこの東京スカイツリーに集まっているということが、本当に嬉しいですし誇らしいなあと思います。

DJ(林)

そうですね。

市長

また、この東京スカイツリーがある、墨田区では、平成25年、来年ですね、ものづくりのまちの首長が集まって開催する「中小企業サミット」が開催される予定なんです。

DJ(林)

そうですか。

市長

その時には私も参加をさせていただく予定ですので、東京スカイツリーの展望デッキからの景色や私たち今日紹介しましたような関西の、そして尼崎の企業さんの技術などをしっかり見てきたいと思えます。

DJ(林)

はい、よろしく申し上げます。それでは稲村市長、本日もありがとうございました。

市長

はい、ありがとうございました。